

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403103		
法人名	社会福祉法人ハートフルなこそ		
事業所名	グループホームわいの家 ぬくい		
所在地	福島県いわき市植田町小名田13-2		
自己評価作成日	令和2年12月11日	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

わいの家=私の家という理念を反映し、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの生活リズムで過ごすことが出来る様支援している。生活環境は、ハード面ソフト面から、自宅で生活していた延長線で居室環境を作り生活パターンを計算し支援している。ご家族とのご面会も、ゆっくりくつろいでいく方が多い。(新型コロナ発症前)  
 地域とのかかわりは、運営推進会議を中心に、高校生や保育園・自治会の方々との交流がある。(新型コロナ前)また、認知症カフェの開催により、地域の方との交流が増え、地域社会の中で暮らすことの重要性をさらに目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年2月18日		

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果『わいの家:ぬくい』

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に理事長と事業所長から理念の説明を支し、理念を知っていただき支援にあたる。また、玄関や事務所に理念を掲示し、理念の再確認を常にできる様工夫している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の高校生や保育園児の訪問により定期的な交流をしている(コロナ前)また、自治会との合同避難訓練や図上訓練を定期で実施したり、認知症カフェに地域の方とご利用者が参加していたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止に伴い実施出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との合同防災訓練の際に、参加者に対し車いすの扱い方や、認知症の対応についてアドヴァイスを実施していたが今年度は実施できていない。認知症カフェによる相談は3回ほど実施し、地域貢献の一助を担っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	年6回推進会議を開催し、わいの家の出来事や防災状況身体拘束防止のための研修報告などを伝達している。委員の方々には課題やアドヴァイスをいただいているが、今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、開催は3回となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告や待機利用者について連絡を取り合い指示灯を受けることがある。認知症カフェを通じ地域包括ケア推進課の職員と状況報告等をしている。介護相談員については、新型コロナウイルス感染防止のため休止中。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関のカギを閉めずに、ご利用者様が自由に出入りできる環境作りをしている。サービス面では虐待及び身体拘束委員会による研修やDVDによる勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会で配布されたDVDを全職員が見て、感じたことを出し合い、自分に置き換えて振り返る機会を持つことが出来た。お互いに「言い合える」環境作りを実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市で開催する集団指導での内容を、毎年1回勉強会の中で伝達し、意識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を提示し、入居に関する説明をしている。内容改定の際は、改定の文書を説明し同意を得ている。また、相談窓口を明確にし相談しやすい環境を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関ホールにメッセージボックスを設置し、気軽に投稿できるようにしている。また、面会時や電話でのご要望やご意見は真摯に聞き入れるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を年3回実施し、個人の意見や要望を聞く機会としている。日頃から風通しのいい環境づくりに努め、可能なものに関しては、改善や実行に移すなど反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	資格取得支援を行い、有資格者への手当の支給を行っている。時間外労働を減らす努力はしているがなかなか実績が出ない中、「お互い様」を合言葉に、有給取得をしやすい環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修へ出来る限り電員が参加できるように計らっている。OFF-JTについては、今年度はなかなか参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修にてNPO法人様や、障害福祉課職員の方々の話を伺うなどネットワークづくりを実施。また、メールやメッセージの交換により同業者と気軽に相談できる環境があり、研修や新型コロナ情報など収集でき、サービスの質の向上につながっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に生活歴、症状、性格など基本情報を収集し、ご家族ご本人様にお会いしている。入居後は担当職員を中心に、なじみの関係づくりのために、一緒の時間を多くして信頼関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	短い時間でもご面会を呼びかけたり、些細なことでも情報を電話等でお知らせする(ご希望者のみ)などしている。また、要望や意見をいただき、安心していただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されてからの生活状況により、変化や要望を把握し対応するよう努めている。ご家族にはこまめに情報を伝達し、支援に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りと選択肢を持っていただき、一部支援により自立を促している。また、役割を持っていただき、やりがいと満足感と張り合いを持てる様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を写真や広報誌で送り、電話や面会時には職員がお話をさせていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医に家族と通院したり、公用車で自宅を見に行き、近所の方と話をしてくるなど、コロナ禍であっても、出来る限るつながり続け支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の状態に合った役割を依頼し、役割が重なって取り合いにならないよう、さりげなく誘導し、コミュニケーションを図りながら孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で終了してしまった方には特に、定期的に面会に行ったり、退所後も、荷物の処分や、その後の生活など伺えるよう、関係性を持続しご家族にも配慮した声掛けをするよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中で、昔の話など回想しながら、生活スタイルや今の生活で何がしたいかなど、情報収集し、その人らしい生活が支援できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族、ケアマネージャーより情報収集し、職員間で共有している。事前情報では無い事が本人との会話、ご家族との会話から聞き取れることもあるため、ご家族とも情報の共有を図り、関係性の構築をしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時は24時間の記録・申し送りノート・申し送りにより全体の把握を行う。その後、利用者の表情や仕草・体調変などを観察し、目配りや所在確認など、職員同士でコミュニケーションを取りながら状況把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議(カンファレンス)で課題・改善すべき点をチームにて話し合い、CMを巻き込み計画書に反映している。ご家族の会議参加が困難な時は電話でのやり取りを実施し意見をとり込んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な行動も記録に残し、どんな変化があるか?など、チームでの情報を共有し支援に努めている。状態変化がある際には、カンファレンスの実施、又会議にて課題の進捗状況を報告し、評価し、継続したサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の希望を出来る限り対応できるようカンファレンスや会議にてチームの考への周知に加え上司(CM)も参加してもらい、サービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、近辺の学生ボランティアの受け入れや定期的開催している認知症カフェについて、コロナ禍により、地域資源との協働の実践は達成出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月1回の往診にて情報の共有を図っている。緊急時の受診を行っている。その都度結果をご家族へ連絡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で感じた変化や気づきについて相談し、指示・アドバイスを受け、早期に適切な対応が行えるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、必要時にかかりつけ医との連携を取り、定期的に行う往診の際に状態を報告し、情報共有するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に状態の悪化に伴い、終末期のに向けた対応の方向性の話しの以前に、悪化前の状態はどうであったか？など、ご家族側からも受け入れやすいよう、日頃から定期的に近況の連絡等を行い、情報共有を密にしていこう努めていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で年2回普通救命講習会が開催される為、新採用者を優先的に参加させたり、交代で受講するようにしている。また、地域や学校などで開催されるときには、職員も参加させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年から水害訓練も実施が始まり、避難行動は把握できたが、コロナ禍により地域との合同での連携部分を確認出来ていない。ホーム内での避難訓練は年6回開催している。火災自動報知器の連絡先には、自治会の会長様や防災担当者様の電話番号も入力させていただいている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年1回研修を開催し、日々の介護を行う上でマンネリ化しないよう、相手の意思を尊重し支援が行えるよう繰り返し研修会をしている。また、職員同士が注意しあえるような関係づくりも努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日着る服、今のみたい飲み物など日常の些細な自己決定をする際も、多くのものから利用者が選択できるよう、個別に工夫しが支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、『その人らしく』生活できる様、部屋の配置や就寝時間・起床時間・余暇活動等、本人と御家族より伺い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一部の利用者様には服や上着など本人と一緒に買いに行っている(今年はコロナ禍で実施されず希望を聞いて購入している)髪型も本人の意向に沿い、カットや毛染めの実施をしている。化粧をする方にも化粧品の補充など職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	買い出しから実施していたがコロナ禍で今年は出来なかった。しかし座りながらでも一緒に行える事(野菜の皮むき、味見担当、皿だしなど)、一緒に作りながら食事への楽しみ、食欲が出るような声掛けをしている。食べる際は、同じテーブルで職員も一緒に食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや摂取量・摂取時間への配慮をし、状況によって栄養補助食品を提供している。水分は、食事時・食間(10時と15時)以外でもいつでも飲めるようお茶を入れた急須を常時セットしている。栄養バランスについては時折特養の栄養士にメニューを確認してもらうなど協力していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は義歯洗浄及び口腔ケアを実施している。義歯を外したがない時は、時間をおいて再度声掛けをして一緒に洗浄・うがいの実施等行い口腔内の清潔保持に努めている。夜間は義歯を預かり個別に洗浄消毒を実施中。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別排泄のパターンを把握し、食前・食後のトイレの誘導や声掛けを実施。座位がとれれば、苦痛のないよう二人対応にて安全にトイレに座って排泄していただくよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼らず、ご家族への協力依頼にて、個人購入で腸内環境を整える発酵食品を購入し提供したり、状態に応じ家屋内を往復するなど運動量を増やす配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望(一番風呂が良い方、最後にゆっくり入りたい方など)に合わせ、本人の意思を確認し入浴の実施に努めている。時期によっては、ゆず湯にしたり、香りも楽しめるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	細かな情報(起床時間、バイタル、排泄状況、普段の様子の違いなど)をチームで共有し昼寝や一人になる時間を意図的に促している。また、快適な室温や加湿・除湿の調整をこまめにし、布団乾燥機をフルに使い、安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新規の内服薬の処方時や変更時は、記録実施記録を観ることで目的を確認する。また、処方された薬の情報をケース記録に綴じているため、副作用や用途など各自が確認できるよう申し送りノートにより周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ウッドデッキにて日光浴、歌、思い出話を聞く、洗濯物の片付け、掃除の手伝い、食事作り(野菜の皮むき等)テーブル拭きなど、一人ひとりに合った役割を持っていただき無理のない範囲で実施している。ドライブ等の気分転換も図っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響もあり、利用者の安全を最優先に考え、極力戸外への外出は控えているが、気分転換を図るためにも、施設周辺の散策や、利用者へ参加の有無を確認し近隣公園に紅葉狩りドライブの実施し、楽しんで頂くことができた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に金銭持参依頼の相談をし、手元に金銭がある事で安心できる環境の提供をしている。移動販売や自動販売機などで買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話あった際はゆっくり話が出る環境を準備している。本人から要望があった際は職員がかけ、本人につなぐなどの橋渡しをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や置物を飾り程よく季節感を醸し出している。玄関とたたきの空間はイスを配置し、BGMを使いリビングとは違った空間演出をしている。照明器具を電球色にして夜話やかな雰囲気工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の席は特に決めず、日々の利用者の気分や健康状態に合わせて座っている。。また、一人で休める小休憩スペースにイスを配置したり、居室環境を整えるなど居場所作りに工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	在宅で使い慣れたタンスや小物を配置することで居心地のいい空間作りをしている。又、ご家族の写真等飾ったり、好きなものを配置するなど安心して生活できる環境づくりに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	サイドレール・トランスポーの取り付けにより自分で立ち上がれたり、夜間トイレの電気をつけておく事で一人でトイレに行ける、自室の入り口に目印をつけて迷わず部屋に行けるなど工夫をし、自立支援を行っている。		